

## 今後（2022 年度）の調達 WG の検討方針及びスケジュール

## ●調達コードの策定について

- ・ 今後も、東京 2020 大会の調達コードをベースに①5 年経過したことによる社会の変化、②オリンピック・パラリンピックとの事業としての違いを踏まえて検討することとする。具体的な検討項目としては、東京 2020 大会でも策定された農産品、水産品、畜産品、パーム油の個別基準とする。
- ・ これらは主に食品関係であり適用される対象については、東京 2020 大会と大きく異なり大阪・関西万博では、コードの適用を受ける事業者は、数は多く、大きさまざまである※。また、大阪・関西万博は約半年間と長期にわたるため、調達量も大量である。

※飲食施設としてはラウンジ&ダイニング、ファミリーレストラン、カフェ、ファストフード、フードコート、キッチンカーなどの営業出店を想定。また、メッセなどにおける展示会での試飲食、さらには各パビリオンにおいても飲食品の提供が可能であるため、少なくとも 100 以上の事業者が対象になる予定。

- ・ また万博は、食文化の発信の観点もあること等から、過去万博の調達基準も参考にしつつ、例えば①最低限守るべき基準と、②最先端の基準（もしくは推奨）といった最低 2 つのイメージを念頭に置いて議論を進める。

## ●通報受付窓口（グリーンバンス・メカニズム）の設置について

- ・ 調達コードを実効性のあるものとするため、通報受付窓口（グリーンバンス・メカニズム）の具体的な運用基準の策定に向け検討していく。

## ●調達コード以外の基準等の策定について

- ・ これまでの調達WGにおいて、食品循環資源の 3R の在り方やプラスチックの使用の削減、リサイクルの在り方について方針を示すべきというご指摘を頂いてきたところ。ただし、これらについては「『調達』コード」という名の下では記載しにくい事項もある。
- ・ また、東京 2020 大会と異なり、パビリオン、食品提供等半年間に及び様々な者が「業」を営むというのも国際博覧会の特徴である。
- ・ このため、一括して「プラスチックを含むごみゼロ、食品廃棄ゼロ、ファッションロスゼロに向けた運営に関する基準（仮称）」の策定を行う。なお、こ

の基準には以下のような事項を規定することが想定される。

■プラスチックを含むごみゼロ

- ・会場内で使用する食器・容器・カトラリーの素材・サイズ・環境負荷の少なさを担保するための活用すべき認証制度
- ・設置するゴミ箱の分別の種類
- ・配布するノベルティについての配慮事項
- ・販売物品の包装

■食品廃棄ゼロ

- ・食品ロスをなくす取組、排出された食品残渣のリサイクル

■ファッションロスゼロ

- ・ユニフォームに使用を推奨する素材やリサイクルのための取組

- ・上記の具体的対策については、2022年8月上旬に別途設置する資源循環勉強会で検討し、それらの検討結果をご報告したうえで議論を進める。
- ・パビリオン内での省エネ設備導入等については、2022年7月末に別途設置する脱炭素ワーキンググループにて検討する。

●今後（2022年度）のスケジュールについて

7/19 個別基準（農・畜・水産物、パーム油）策定に向けたヒアリング（1）

- ・畜産物、水産物、パーム油（各専門家、関係団体等）からの説明及び質疑応答

8/1 個別基準（農・畜・水産物、パーム油）策定に向けたヒアリング（2）

- ・パーム油、農産物（各専門家、関係団体等）、食品全般（消費者、外食流通業界団体）からの説明及び質疑応答、意見交換

9月 食品関係の調達コード（案）、通報受付窓口（グリーンバンス・メカニズム）（案）審議

10月 資源循環に関する博覧会協会等の取組のイメージの報告及び「プラスチックを含むごみゼロ、食品廃棄ゼロ、ファッションロスゼロに向けた運営に関する基準（仮称）」審議

11月 9月、10月の議論のとりまとめ  
（調達コードに関する意見募集）

1月 調達コードおよび各基準等のとりまとめ

以上